

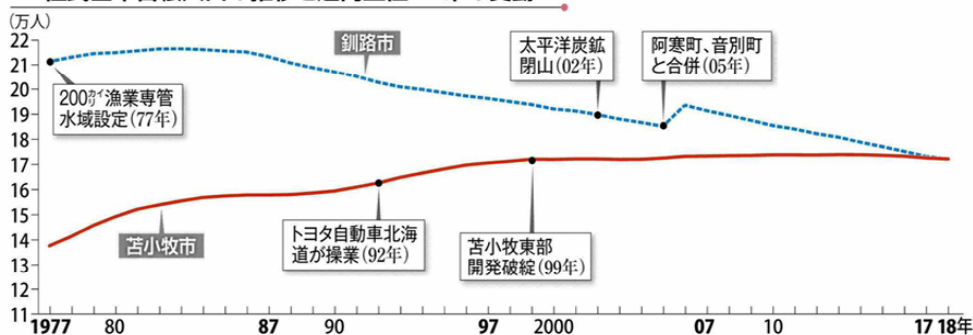


年 組 名前

道新でワークシート

苦小牧の人口 釧路を抜き道内4位に 若者の流出が課題

住民基本台帳人口の推移と道内上位10市の変動



道内の人口上位10市

	1977年	87年	97年	2007年	17年	18年
①札幌	125万5658	155万5042	176万8091	187万4410	194万6407	196万3626
②旭川	33万0606	36万2876	36万2547	35万7182	34万1335	33万9858
③函館	31万0527	31万4492	29万3588	29万0873	26万3706	26万2519
④釧路	21万1357	21万3263	19万6280	19万1407	17万3223	17万2236
⑤小樽	18万7055	17万2673	17万2279	17万3322	17万2601	17万2214
⑥室蘭	16万5323	16万3898	17万0602	17万0286	16万7560	16万7597
⑦帯広	14万5723	15万7873	15万5600	13万9712	12万0037	11万9021
⑧苦小牧	13万7661	13万5228	11万6984	12万7599	11万9194	11万8923
⑨北見	9万4377	10万6350	10万9646	12万3086	11万8784	11万8716
⑩江別	7万9186	8万9388	10万7946	9万7517	9万5761	9万6790

※各年3月末。2018年は1月末で、札幌市、函館市、小樽市は17年12月末

住民基本台帳に基づく1月末時点の人口で、苦小牧市は17万2236人となり、釧路市の17万2214人を22人差で抜き、道内4位に浮上した。両市とも人口減少が続いているが、苦小牧市は微減にとどめ、激減する釧路市を逆転した。ただ、働き手となる20、30代の流出が著しく、市は若年層の定住を図る取り組みに力を入れる方針だ。

「両市とも人口が減少している中での順位交代。もっと若者が働ける、良質な雇用」の場をつくる必要がある」とも指摘した。

ある。岩倉博文市長は苦小牧市の人口が道内4位に上がったとの知らせにニコリともしなかった。

(若松樹)

続く微減 手放しで喜べず

1月末時点の人口は、苦小牧市が前年同月比86.7人減、釧路市が同2135人減。苦小牧市の人口減が人減。苦小牧市の人口減が

微減にとどまっているだけで、手放しでは喜べないからだ。

苦小牧市は王子製紙苦小牧工場やトヨタ自動車北海道を抱える道内有数の工業都市として発展してきた。しかし、人口は2013年11月末の17万4485人をピークに減少に転じている。釧路市など道内他都市と比べると、人口の減少率は低いが、進学や就職などで苦小牧を離れる若者は後を絶たない。

14年12月末と17年12月末の世代別人口を比べると、50代、60代はそれぞれ3年間で約500人減にとどまったものの、20代は1318人減、30代は1985人減だ。20、30代の減少は他世代の3、4倍に上る。

このため、市は昨年1月、道外の移住促進フェアに初めて出展したほか、新千歳空港や札幌市へのアクセスの良さを訴えるポスターも製作。独自の保育料無償制度なども設け、若年層の定住に力を注いでいる。市政策推進課は「若い世代が住み、子供を産んでもらえるまちづくりを進めたい」としている。

2018年2月7日朝刊苦小牧・日高版（記事は再編集しています）

①見出しに「手放しで喜べず」とありますが、苦小牧市の人口が道内4位に上がったことを手放しに喜べないのはなぜですか。その理由を二つ書きなさい。

②図表の読み取りとして正しいものを、ア～エから二つ選びなさい。

- ア. 1977年の道内人口上位10市のうち、2018年の上位10市に入っていないのは室蘭市である。
- イ. 1997年の時点で、人口第10位の都市は江別市である。
- ウ. 2005年の合併の後、釧路市の人口は一時期やや増加した。
- エ. 1987年の時点で、苦小牧市の人口は釧路市より5万人以上多かった。